

「空の手で生きていく」

色々な動作や運動に当てはまることですが、あまり力を入れすぎると、上手くいくものも上手くいかない、という。泳ぐ時に、全身緊張していると、水に沈んでしまうとか。ボールを投げる時に力みすぎるとボールをコントロールできないとか。しなやかに踊るためには力を抜くことも大事とか。そういう類の話です。過ぎたるは及ばざるが如しという諺や、中庸という言葉とも通じるかも知れません。なんでも力を入れ過ぎたらダメですよ、という。キリスト教には、そういう教えが特別あるわけではありませんが、ある意味、私たちも良い意味で、何事も「適当」に考えて、力を抜くところは抜き、他に任せるところは任せる、ということを聖書から教えられています。何でもかんでも力強く握りしめて、自分の領分として保有し、そこに他者の介入を拒み続ける、ということは、あまり健やかな状態とは言えません。頑張り抜くことはとても大切だけれども、ちょっとだけ、自分を越えた存在が働かれる余地を残しておくこと。それって、とても勇気がいる決断かも知れませんが、でも、人が持続的に心も身体も健康に生きていく上では、とても大事なことだと思います。

そういう意味では、キリスト教は、良い感じに力を抜くこと、良い感じに委ねることが、とても上手だと言えます。自分が今、手に持っている様々な悩みや願いや責任を、神様に祈りつつ、適度に委ねていること。実際に、祈る時には、普通、何も持たずに、手と手を合わせます。それは、象徴的な意味ですけれど、自分のなすべきことの一部を、神様にお委ねしている、という姿なのかも知れません。

私たちは、自分が持っているものの多さや豊かさで安心したり、また慢心したりします。まあ、先立つものがなければ、幸せな人生は難しいですから、自分の持っているものが、より豊かになる

ようにと私たちが努力することは、肯定されないといけません。ただ、自分の手元には何もないんだと認めることで、逆に安心と幸せを感じる場合もあります。例えば「希望」というものは、実は、あまり自分の手元にはない方がいいんじゃないかと、私は思います。よく「希望を持つ」とか「希望を抱く」とか言いますが、何かの拍子で、よくよく希望は、自分の手元から滑り落ちていくものです。だから、キリスト教では、こんな風に考えます。「そもそも、希望は人間の手の内には無いものなのだ」と。今日の聖書箇所においても、こう書かれていました。「生き生きとした希望を与え、また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しぼまない財産を受け継ぐ者」と。「希望は与えられるもの」である、という。この考え方は、「希望」を勝ち取り、我が物にすることを格好良く感じる立場からしますと、かなり他人任せ、運任せで相応しい生き方ではないように思えるかも知れません。けれど、「希望は与えられるもの」という考え方においては、たとえ自分の手元に残っている希望がゼロになったとしても、それが絶望する理由にはなりません。「希望は与えられるもの」なのだから、そもそも自分の手元に希望があるとか、ないとか、希望を生み出せるとか、生み出せないとか、それは別に大きな問題にはなりません。

また、私たちは「天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しぼまない財産を受け継ぐ者」であると言うのなら、なおのこと、自分の手元に何が残っていて、何が失われているのか、という不安を持つ必要がありません。私たちにとって大事なものは、天に蓄えられている。たとえ自分の手持ちを全てを失ったとしても、でも、まだ大丈夫。

ある牧師は、このキリスト教の考え方をお金にたとえまして、「クリスチャンというのは口座残高がゼロでも気にしない。なぜなら、私たちには天の上に、もう一つ隠し口座を持っているからだ」と言いました。まあ、本当に口座残高がゼロになると、不安で仕方ありませんが、これが「希望」の残高の話であれば、なるほどなあ、という言い回しです。私たちは、天の上に税務署も感知しな

い、隠れた秘密口座を持っていて、そこから、必要な時に、相応しい形で恵みを受け取ることができ
る。裏金を作るのは悪いことですが、自分の所有ではない希望があることを、心に留めて常に期
待しておくというのは、悪くないと思います。

そんな風に考えてみますと、ちょっと神様を信じることの利点と言いますか、有り難みと言いま
すか・・・、信仰というものの実際に役立つ意味が見えてくるように思います。手元には存在しな
い希望や喜びが、でも、天には備えられていて、私たちはそれを受け取ることができるんだという。

ただ、そういう信仰の意味を弁えていたとしても、私たちは様々な感情を持つ人間ですから、な
かなか天の隠し口座のことも、また、そこから頂く恵みについても、素直に受け止められないこと
があります。私たちの人生には、「試練」が備えられているものですから、常に心穏やかに天を仰
いで生きることは難しい。「今、この瞬間」の怒りや悲しみに振り回されることもあります。でも、
そのような怒りや悲しみの伴う試練にしても、神様の御計画の内に何か目的を持つものであるとす
れば、たとえ心穏やかに過ごせなくても、でも、ちょっと気が楽になるかも知れません。「今しば
らく間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれない」と、正直に聖書にも書いてありますの
で、それが昔から変わらないこの世界の真実なのでしょう。いろいろな試練があるんです、仕方な
いことに。ただ、その試練は、私たちの信仰が本物であると証明するために、折りを見て、与えら
れる前向きな意味を持った試練なのだと思います。「火で精錬されながらも朽ちるほかない金より
はるかに尊くて、イエス・キリストの現れるときには、賞賛と栄光と誉れをもたらず」という、そ
んな有り難い目的と意図をもった、神様からの試練がある、ということですね。まあ、試練なんて
ものはないに越したことはありませんが、全く波風の立たない人生なんて有り得ないのだから、降
りかかる試練に「金よりもはるかに尊い」目的があるんだと受け止めることは、とても良い姿勢な
んじゃないかと思います。常日頃、そんなに自分が金よりも尊く精錬されているなんて感覚を覚え

ることは少ないでしょうが、きっと、試練や困難を乗り越える度に、あるいは試練や困難を乗り越えられず反省する度に、私たちは少しずつ磨かれて、清められて、格好いい信仰者になっていくんじゃないかと思います。

信仰がなければ、単なる苦しみに過ぎないことも、「きっと神様にはお考えがあるんだろう」と思うことで、悔しさや虚しさは幾分か改善されると思います。自分だけが、自分の人生を支配しているわけではないこと。たとえ、自分の手持ちが心許ないとしても、天には希望があり、財産があるということ。時には、両の手を空にして、何も持たずに、自分に何の期待もせずに、祈るというのも、人生の充実度を上げるために、なかなか有効なんじゃないかと思います。そして、そんな生き様から醸し出される、なんだか良い感じのキリストの香りが、隣人やこの社会に好ましい影響を与えるんじゃないかと、私は思っています。

主に委ねるということの意味を噛み締めながら、今日から始まる1週間もご一緒に歩いて参りたいと願うものであります。

神様。

今日も、私たちのために尊い安息日を備えてくださり、ありがとうございます。私たちは、時にとっても真面目になり、真剣になり、一生懸命になり、自分だけの力で事を成そうと張り切ることがあります。そんな時、どうかあなたが来てくださり、私たちの一生懸命な働きをそっと支えていてください。そして、あなたの働かれたことに気づく心と信仰をお与えください。私たちが、力を入れ過ぎて疲れてしまわないように、抱え込み過ぎて沈んでしまわないように。握りしめた手を緩めて、あなたに祈ることのできる余裕と安心を受け取ることができますように。今日から始まる1週間も、あなたと共に歩む道なりに、生き生きとした希望が備えられますように。お願いを致します。

このお祈りを、我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。

2月誕生者の祝福祈祷

詩編 121 編 5～8 節

「主はあなたを見守る方／あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。昼、太陽はあなたを撃つことがなく／夜、月もあなたを撃つことがない。主がすべての災いを遠ざけて／あなたを見守り／あなたの魂を見守ってくださるように。あなたの出で立つのも帰るのも／主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。」

神様。

私たちは、2月最初の聖日に、あなたから尊い命を与えられ、私たちの友となってくださった方々を憶えて祈りを合わせています。あなたは、私たちが母の胎内にいる時から、私たちのことを見つけ、今に至るまで導いてくださいました。この2月生まれの方々も、それぞれの人生において、あなたによって召し出され、あなたによって導かれてきたことを受け入れ、今あなたの御前にあって信仰の日々を過ごしています。どうか、あなたを見上げ、慕うことをやめないこの方々を豊かな祝福で満たしてください。限りない導きと支えをお与えください。また、人は一人では生きてはゆけません。この方々の周りにいらっしゃる掛け替えのないご家族、ご友人の上にもあなたの恵みが注がれますように。親しき人の輪が、あなたによって祝福されますようお願い致します。

この祈り、尊き主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。